

## 新年のご挨拶

建設・不動産部会 部会長／理事  
**OBAYASHI CORPORATION**  
 General Manager (OBAYASHI SINGAPORE PRIVATE LIMITED / Director)  
**大塚 信吾**



新年あけましておめでとうございます。  
 シンガポール日本商工会議所の会員の皆様におかれましては、健やかに新年を迎えられましたことと存じます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

### 1. 2023年度活動報告

昨年は7月の建設・不動産部会「夕食懇親会」、10月には鹿島建設様のシンガポール本社ビル The GEARの見学会、合わせて2つのイベントを開催いたしました。

前者の懇親会は7月13日にカトンにあるユーラシア料理店にて開催いたしました。しばらく会う機会が無かった方、初参加の方など、総勢27名の参加者が、ユーラシア料理を堪能しながら、活発な交流を行いました。今回は募集人数を30名に増やした結果、多くの部会員の方々にご参加を頂き、盛況な懇親会になりました。部会員相互の親睦を深めて頂く良い機会として役立てて頂けたかと思えます。ご多忙の中、ご参加頂いた皆さま、誠にありがとうございました。

後者のThe GEAR見学会においては鹿島建設様より事業計画、建物コンセプト、工事の様子、建物の機能紹介についてご説明をいただきました。事業計画における様々な課題や現場での工夫などについて学ぶことができ、大変貴重な機会となりました。

### 2. 2023年のシンガポール建設市場

シンガポール建築建設庁（BCA）は、2023年1月12日に、2023年のシンガポールの国内建設受注額が270～320億シンガポールドル（以下、SGD）（前年度298億SGD）、建設施工高が300億～330億シンガポールドル（前年度302億SGD）になると発表しました。受注環境は同規模で推移しつつ、2021年に新型コロナウイルスの反動により受注が増加したことで、2023年には施工高が伸びるとしています。

また、シンガポール貿易産業省（MTI：Ministry of Trade and Industry）は2023年8月11日に、シンガポールの2023年GDP成長率（予想値）を当初の予測レンジの0.5%～2.5%から0.5%から1.5%に引き下げると発表しましたが、建設業は前年度比較で6.8%の成長を示しており、他産業よりも高水準での成長が予想されています。

### 3. 2024年以降のシンガポール建設市場

BCAは、2024年～2027年の中・長期国内建設受注額を250～320億SGDの間で推移するとの見込みを示しています。公団住宅の新築・改修やトヤパヨ地区再開発、アレクサンドラやベドックエリアの病院開発、LTA発注のMRT地下鉄の新設・延伸、PUBにより浄水場関連事業といった大規模公共工事の出件が予定されており、堅調に推移するとの見立てです。

なお、上記予測には、チャンギ空港第5ターミナル及び統合型リゾート施設（IR）の建設需要は含まれていません。航空需要、観光需要の回復に伴い関連プロジェクトが再始動しており、更に上振れすることが予想されます。

数字上は堅調に見える建設市場ですが、ウクライナ戦争、台湾有事によるサプライチェーンの混乱により惹起される建設作業員の不足、建設資材の価格高騰のリスクといった不安材料も残っています。そして今年10月11日に始まったイスラエルとハマスの問題による原油の高騰や更なる世界情勢の不安定化が不安視されており、今後の動きについては、なお注視する必要があります。

環境関連では、BCAは2021年2月に公表されたシンガポールの包括的な環境行動計画「Singapore Green Plan 2030」を受けて、昨年7月にSingapore Green Building Masterplanを第4版に改訂し、9月にはBuilt Environment Industry Transformation Map（BEITM）も改訂しています。更に昨年11月に開催されたCOP27において2050年までにネットゼロを達成すると国家目標として発表し、従来からの計画を前倒しました。そのため、建設分野における持続可能性への行動計画が次々と策定、業界としてもCO2排出量削減への動きが益々求められるものと考えられます。今年も2月にBCAによるBEITMセミナーの実施を予定しており、最新の情報に触れ、意見交換などを通じて理解を深め、会員企業の皆様のより良い未来に向けた一手に貢献できればと思います。

本年が皆様にとってより良い年となることを心より祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。